読書指導（国語）指導案

1，単元名：読書のとびらをあけてみよう（教科書では「読書室」・「読書案内」） 1時間扱い

2，単元設定の理由：子どもたちが本を読まなくなっている。その理由の一つに「おもしろそうな本がない。」というのがある。ここでは、中学1年生の教科書に紹介されている本から20冊を選んで、その何冊かを紹介する。最後まで読まなくても、手にとって少し読んでみるということから関心を持たせるようにしたい。そこで、ワークシートを用意して、読んだ本をチェックできるようにし、それがおもしろかったか感想をABCの三段階で書くようにした。

本来、読書というのは強制されるものではなく、進んで楽しみつつ読むところに良さがある。

しかし、ここで紹介する本は、なかなか手にはとられない。読み始めてみたらおもしろいということもある。途中でやめたとしても、多少でも内容を知っているというのは教養を高めることにもなる。文化の継承ということにもつながる。。

さらに、読んだ本の中から紹介文を書くようにもした。ワークシート記入は2月末日までとする。この期間内で最低1冊は読んでもらいたいということ、読んだ本を伝えあうことから、読書の幅を広げることもねらいたい。

3，準備：教科書に紹介されている本が図書室にあるか探して抜き出しておく。

学校にない本は公共図書館から団体貸し出しの手続きを踏んで借りる。本の合計冊数は、学級の数以上になるようにする。

すべての本に目を通して、特に紹介したい本を決め、話し方を考える。

4，本時のねらい：本の紹介を聞いて関心を持ち、進んで手にとって読む。

5，展開（1/1）

時配	生徒の活動	支援
5分	1，読書をするるとどんな効用があるのか考えて発表する。	1，読書の意義を確認する。
	2，ワークシートの使い方を理解する。	2，ワークシートを配り，説明する。
20分	3，本の紹介を聞く。	3，ノンフィクション，日本文学，外国文学のジャンルごとに数冊紹介する。
20分	4，関心の持てる本を見つけて各自読む。	4，紹介した本を含め，ワークシートにある本だけを読むようにさせる。 ・本が選べない生徒に助言する。
5分	5，この時間内で読んだ範囲について感想を言う。（2，3人）	5，途中の感想を聞く。
	6，図書室の本は個人で借りる。公共図書館の本は，学級で借りる。	6，本の貸し出しをする。